INTERVIEW

公設宮代福祉医療センター センター長
石井英利 先生

この町の環境だからこそできる，地域と一体となった地域医療

聞き手：山田隆司　地域医療研究所長

義務明けすぐに準備室に赴任して18年

山田隆司(聞き手)　今日は公設宮代福祉医療センター(愛称「六花(りっか)」)にセンター長の石井英利先生をお訪ねしました．先生は六花の開設当時からいらっしゃいますが，卒業してからここに赴任するまでの経緯をお話しいただけますか．

石井英利　私は自治医科大学の埼玉県17期の卒業です．初期研修は２年間さいたま赤十字病院で勤務しました．埼玉県の卒業生が行くへき地は秩父エリアだったので，卒業後３年目からは秩父市立病院へ３年間内科医として派遣されました．その後１年間の後期研修をさいたま赤十字病院の病理で半年，残りの半年を自治医大附属さいたま医療センターの放射線科で勤務しました．次の卒業後７年目には再度秩父市立病院に戻り，義務年限の最後の２年間は国保町立小鹿野中央病院に派遣されました．たまたま私の場合は巡り合わせで一人診療所は経験せず，９年間が終わりました．

その９年目のときに宮代の話があり，藤来靖士先生が初代管理者に就かれるということで，私は卒業後の義務年限が明けてすぐに開設準備室から合流しました．

山田　それは何年ですか．

石井　2003年です．その年の10月１日にオープンしました．

山田　もう18年前になるのですね．当初は藤来先生と先生の２人ですか．

石井　藤来先生がセンター長，私が診療所長，藤来

美香先生が老健の施設長で，常勤の医師は３人でした．私は４月いっぱいで義務が明けて５月の初めから地域医療振興協会の一員として準備室に所属しました．それに合わせて宮代町内の医師住宅にも住めるようにしていただきました．

山田　ここは公設宮代福祉医療センターという正式名称で公設民営方式で始まり，その後2006年度から町と指定管理契約を結んで，開設から18年が経過したわけですが，今回，改めて指定管理者を公募するという形になったと伺いました．

石井　はい．公募という形になり，選定委員会で改めて候補者として選ばれたという段階です．これから町の議会で審議があり，最終的には町長が指定することになっています．（９月末現在）

山田　18年という長い実績がありながらも今回公募という形になり，現在候補者に選定されたということですね．今の時点では決定ではありませんが，今回決定すると今後の指定管理契約は何年になるのですか？

石井　10年です．これまでは５年ごとに更新でしたが，今回初めて10年という話になりました．

山田　公設民営の場合，一旦指定管理契約を結べばその後も自動的にその契約が継続するわけではありません．改めて一般公募をしなおすということは十分ありうることですが，指定管理者としては選定されないと，今現場で働いている職員たちが職を失うというリスクを背負うことになります．協会はこれまで共立湊病院の際のように指定管理契約の変更のために継続できなかった例や，開設者である自治体の首長の交代によって従前の指定管理契約が反故になってしまって継続できなかった例などさまざまな経験をしています．宮代町でも今回改めて一般公募になったということで，協会本部としても心配していました．

宮代町の特徴

山田　宮代町の人口はどのくらいですか？

石井　現在３万3,000人ほどです．

山田　結構大きな町ですよね．そのわりに病院がないのですね．

石井　そうですね．医療としての病床はここだけです．六花は複合施設で，有床診療所19床プラス老健80床です．愛称である「六花（りっか）」は，協会が運営する有床診療所，介護老人保健施設，通所リハビリテーション，居宅介護支援事業所，訪問リハビリテーション（訪問看護）と，併設された「町立みやしろ保育園」を合わせた６つの機能が一体となり，地域に根を張り，助け合いの「花」を咲かせていきたいという想いが込められています．診療所の病床利用は少ない現状です．

山田　老健の80床の運営についてはいかがですか．

石井　おかげさまで９割前後の使用率です．

山田　初代は藤来先生がセンター長で，先生が引き継がれたのは何年くらいしてからですか．

石井　2007年４月からです．藤来先生は協会本部に所属となり，いろいろな案件に関わられるようになっていました．美香先生は2008年３月までいらっしゃいました．

山田　その後はどなたが着任されたのですか．

石井　老健の施設長として，埼玉県15期の先輩である遠藤和則先生が赴任されました．内科や整形外科には埼玉県の後輩の先生や非常勤の先生も